

## 個性を尊重し、多様な人材が活躍できる社会を目指して

―(株)栄和産業による未来創造への挑戦―

地域福祉の推進を使命とする本会には、県全域の福祉関係者や医療・保健等関連分野の関係者が会員として参加していますが、本会の活動の趣旨に賛同する民間企業も「賛助会員」として参加していただいています。今号では、賛助会員の取り組みを紹介します。

### 「働く意欲」に光をあてる

綾瀬市に本社工場を置く(株)栄和産業は、昭和49年設立、主にバスや油圧シヨベル等の金属部品を生産しており、「深絞り」という技術が強みの企業です。年齢、性別、国籍を問わず多様な人材を積極的に雇用しており、現在は18歳から82歳までの176名が働いています。

栄和産業では障害のある従業員の雇用、職場実習の受け入れに積極的に取り組んでいます。社長の伊藤正貴さんによると、そのきっかけは「おおよそ半数の企業が法定雇用率を達成しているのに自社は達成していない」ことからでしたが、実習生を受け入れたことにより、多くの気づきがあったと話します。「障害のある方もない方も

新入社員としてのスタートは同じ。学生時代の学びや得意なことの違いによる差はあるが、互いに教え合うことで成長していく」と、各々の従業員が十分に力を発揮できる環境を整えることを大事にしています。「企業の社会的責任のために障害者を雇用するのではない。本人の働きたいという意欲に光をあて、ともに働く人材としてとらえる」という考えのもと、現在16名を雇用しています。

### 「ねじねじ」を仕事につなぐ

ある時、重度の知的障害のある男性と家族から、栄和産業で働きたいという相談が寄せられました。入社当初、本人とはコミュニケーションも難しい状態で、試しに荷札の貼り付け作業に取り組んでももらいました。本人が熱心に努力し、結果を出していく姿をみて、伊藤さんは本人にどのような仕事をしてもらうか思いを巡らせました。荷札作業だけでは企業としての採算性が厳しいため、テプラを使った作業やパソコン操作などを試してもらい、本人の得意なこと、強みを探っていきました。その結

果、パソコンによる名刺作成作業に発展。栄和産業内に「名刺事業部」を開設し、行政職員、福祉事業所などの顧客を獲得して、新たな仕事を創り出しました。

伊藤さんは「配慮すべき点についてはもちろん考えていますが、できないこと」を数えるのではなく、仕事をしながら何ができるようになるかを探していくこと」が大切だとし「法定雇用率を達成しているか否かだけでなく、従業員がどのような役割を持つことができるか、どのようなことに挑戦していくことができるかを考えながら、誰もが成果を感じられる機会を作りたい」と信念を話します。

名刺事業部で活躍中の男性従業員は現在も社内で新たな挑戦を続けているそうです。こうした実践の根源には「誰もが対等な関係で関わり合い、一人ひとりが自分らしい貢献を実感できる文化(インクルージョン)の創造」を掲げる企業理念があります。

### 地域と一緒に進む

栄和産業では、従業員の約4分の1が外国人であることから、月に3回、本社工場の社員食堂で日本語教室を開き、四季折々に日本の文化に触れるイベントも催すな

ど日常生活を支援しています。また、女性が活躍できる職場環境づくりにも力を入れています。他にも地域貢献活動として、地域の小学校のイベントや特別授業への協力、一本の針金から創作する「ねじねじくん」ワークショップなど、ものづくり企業ならではの特色を発揮した多彩な取り組みを行っています。



産学連携で誕生した「ねじねじくん」と伊藤社長(右)と企画部の荒巻さん(左)

伊藤さんは「SDGsやダイバーシティ等が企業に求められているが、自社だけでなく、地域の企業が一緒に取り組んでいけるように率先して活動していきたい」と展望を語ります。

日々の暮らしの安心や充実は様々な社会・経済活動と密接につながっています。本会では、より多くの企業の方々と一緒に「ともに生きる社会」への取り組みを進めていきたいと考えます。

(総務課)